
よろず屋に変人！?(・o・)

莓リズム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

よろず屋に変人！？（・o・）

【Nコード】

N2955Y

【作者名】

莓リズム

【あらすじ】

暇？な大阪の学生が書いてる小説だす（●^o^●）
少しぐろい場面あり 戦闘シーンのときのみ

第一訓 プロローグ（前書き）

初めまして！（●^o^●）

投稿できない日があり週1っていつ可能性大有りなんで
覚悟！？を！！

第一訓 プロローグ

20年ほど前

うちの隣の家に坂田銀時っていうやつがおった髪はその名の通り銀髪でも目がなんちゅうの・・・死んでる

しかも偶然に偶然・・・おんなじ寺子屋通ってた

いわゆるおさなじみ

歳も同じ

んでうちの容姿が・・・

髪はキレイな琥珀色

前髪は7：3分け ー ー ー こんなの感じ

ちなみに普段は髪をNARUTOの綱手みたいにしてる
知らない人は検索してみよう！
目は緑

まつ毛長くてくっつくっく

身長165cm

服は袖のないミニ着物

下がひざ上10cmやねん

もち、黒スパッツ着用ー（七分丈）

靴はブーツ

体は・・・まあよくスタイルいっていわれる・・・

で今そいつはどうしてん？？

っていうとよろず屋っていういわゆる何でも屋を開いてる

まあ・・・少し前に戦いがあってみなさん知ってるあのメンバーで戦った

うちは女っていう理由で戦いは参加できへんかった

悔しかった

先生殺されたのに

でも、銀時は

「めんどくせけど、お前の分まで頑張ってやんよ」

って言ってくれた

うちそれでまあ、納得？したんやけど・・・

でそのよろず屋・・・手伝うことにした

まあ・・・あれ・・・うちの分まで頑張ってくれたお礼やな

で、しばらくして新八や神楽が入ってきた

つーことで、銀時、うち、新八、神楽でよろず屋の始まりや!!

第一訓 プロローグ（後書き）

感想とかがくれたらうれしいです

第二訓 よろず屋（前書き）

はい！先週一話書いただけであと全部書いてないアホ一名です！
よろしく

じゃあ本題へレッツゴー！

第二訓 よろず屋

あるよろず屋に朝六時という、早い時間帯によろず屋から大声が聞こえるのは
いつものこととなっている

あー！申し遅れたんやけどうちの名前は、りんどう ゆめか竜堂夢叶といっねん！
よろしくな！！

「夢叶！！今日の朝ごはん何アルカ！？？またよろず屋じゃあ稼ぎ
足りなくてこの家賃
払うためにまたなんかバイト増やしたアルカ！？？」

「神楽まず朝はおはよう。そして顔洗って服は着替える！！洗濯物
コインラ。ドリーに持っていくから
ご飯今日は和食！バイトはいつものことやから！！」

はい。そうです

ただでさえ家賃払うので精いっぱいなのに、神楽は大食いで生活費が毎月ピンチやねん・・・

だからよろず屋以外に、コンビニのバイトしたりしてんねん！

夢叶は神楽同様よろず屋が家です

このよろず屋には洗濯機とのがないねん！！

ほんま意味分からん！

「あー・・・夢叶・・・俺の分の味噌汁確保しといて」

「銀時ご飯は全部確保しとる！！お前も着替えて飯食わんかい！！
いらんやったら全部うち食うからな！！」

神楽はもう着替えてお行儀よくイスに座っている

「いやあ夢叶・・・いつもすまないねえ・・・家賃とか掃除とか洗濯とかご飯とか！」

「もうそれ耳にタコできとるほど聞いとる！っーか悪い思うんやったら少しはお前もバイトしろ！！」

あんたの当番ゴミ捨てとジャンプ買いに行くだけやし！！なんで社長のお前が何もせえへんねん

おらぁ！！！！」

ちなみにうちは女いつてなめたらあかんし！！

いつも帯には短剣入れてるし、怪力だって結構自信あるで！！

「まあまあ、夢叶さん落ち着いてください。銀さん夢叶さんの言うとおりですよ。

働く気がないんだったら夢叶さんの掃除のひとつお手伝いしたらどうですか？？」

「ええこと言うやんだメガネ。」

「何がダメガネだああ！！！！！」

「新八！！ご飯につばが跳ぶアル・・・汚いからやめろ」

「跳ぶの字って違くない！？ねえ違うんじゃない！？？」

「いつとくけどあたしは夢叶のお手伝いしてアルヨ。買い物の手伝いとか」

「「嘘！？？」」

銀時と新八が声をそろえて言った

「いや、ほんまやから」

「おい・・・俺見たことねえぞ・・・」

「僕ですよ！銀さん！！」

「まあ、それはいいとして・・・」

「いいのかよー！！」

「もう話めちゃくちゃですよ・・・銀さん。」

「台本ガンスルーだな。」

「えっと・・・次なんだっけ・・・ちら・・・ああ！！そうそう今日はめずらしく依頼人が来るよ」

「棒読みじゃないですか！！それにあきらかに今”ちら”って台本見ましたよね！？？」

「細かいことはどうでもいいんだよ。ダメガネ」

「だから、ダメガネ言っな！！銀さんあんたどっちの味方なんです

ピンポーン

か！？？
「

「あ！インターホンなってる・・・夢叶みてこーい・・・」

「はいはい・・・」

ボタン

・
・
・
・
・

「
はー
い
・
・
・
・
」

が
ら
！

第二訓 よろず屋（後書き）

P
S

銀「つて終わり方半端だなおい!!」

神「銀ちゃん、しょうがないある作者はめんどいからこつするアルよ?」

新「なんで疑問なんですか・・・」

夢「はい!次へ続きまーす」

新「当たり前だろーが!!これで次回違う始まり方だったら完ぺきおかしいだろ!!」

第三訓 めんどくさいやつ来た！（前書き）

はい、次々となんかすんません。

第三訓 めんどくさいやつ来た！

なぜ戸を閉めたか

それは・・・

「ちょー！！夢叶！？何で戸閉めたの？？いいかげんにしなさい！」

がらー！！

「その意味分からん変なキャラやめんかい！ツラー！」

でついでに飛び蹴りかます

「ぶはあ！！・・・ツラじゃない桂だ」

「どーでもええ！！ってかあんたか？？依頼人って？」

「その通りだ。」

ついでに横におるエリザベスもうなずいた

「えーと・・・まあどうぞ」

「で、何のようだ？」

「知っている通り我々は攘夷志士だ。それで最近買い物しようと町まででかけたら」

「おい！ちょっと待て！！もうそれ完全にササエさんのパクリだよ

「!!」

「ダメガネの言うとおりや!!どーせ次財布を忘れてスーパーで万引き♪やる!!」

「ちげーよ!!なんで万引き!!?世界のササエさんファンに謝れ!!
!長谷川 町子に謝れ!!
ってかダメガネいうな!!」

「新八・・・お前しらねーの??ササエさんの替え歌・・・ちよ
つと前まではやってたじゃん」

「そうアル!!スーパーで万引き♪みんながにらんでる♪おまわり
怒ってる♪
ルルルルル♪今日はいい天気♪」

「知らねーとかお前遅れてんちゃん???」

「もういいよ！僕が悪かったよ！！で・・・桂さんそれでどーしたんですが？？」

「で買い物しようとしたら・・・外にでられんだ・・・」

「「「「はあ！？」「」「」

「何それ！？お前もう外に出てここきてんやん！！！」

「何それ！？ひょっとしてお前真選組に見られて隙の空いた今ここ来たとかいうけい？」

「銀時の言つとおりだ」

「神楽」

「ほあちよー！！！！」

「ぶはあー！！」

エリザベス
「！？」

「なんだよそれ！！あきらかにお前あれだろ！！」

「手伝ってくれってか！？？あ”ん！？やんのかコラぼけえ！！」

「お前絶対夏休みにアニメとかはまりすぎてオタク化するタイプネ」

「ちょ・・・これ本当！！真選組かはどうか分らんが、何かが我々を監視しているのだ！！」

「本当かどうか分かりませんが・・・銀さんどうします??」

「まあ、とりあえず受けるけど・・・金払えよ」

「そうアル！！久しぶりに洋食食べたいネ！！」

「んでなんか心当たりは??恨まれるようなこと最近してへん?」

「・・・そういえば・・・なんかヤクザっぽい奴に当たってケンカ売られて殴ったら弱かった・・・」

「かんぺきそれやん!!もうお前それやん!!絶対それやん!!」

「個人的の問題じゃねーか!!!俺達になすりつけんなよ!!!」

「まあ・・・受けちゃったし・・・やるしか・・・」

「ち！！行くぞ！神楽、新八、夢叶」

第三訓 めんどくさいやつ来た！（後書き）

次回、依頼開始！？

第四訓 偵察？日記（前書き）

ではでは・・・

第四訓 偵察？日記

まず、私たちはその問題である家に向かった

「ちょっと！銀さん……どうします？……このまま
進めばめんどいですし……」

「夢叶ー！ー！」

「あーもう！ー！お前もまず考えろ！ー！おいッラ双眼鏡貸せ」

「はい。」

「みんな！ついてこい！ー！」

「んでなんで屋上！？？」

「うるさい！何にも言わへんくせに！黙っとけ！！」

「まあまあ銀さん、ここは夢叶さんにまかせましょう。」

で双眼鏡をのぞく

「んーと・・・あそこが攘夷志士の集まる場所やんな・・・」

その周りを見ると完ぺきやばかった。

望遠鏡とか刀もった着物の男たち　しかも全員いかついおっさんが

その場所をガンミしとる・・・！！！！

「ッラー！！！！お前なんちゆ奴に手えだしとんねん！！やばいやん

「!!」

「どうしたんです!？」

「何かあったアルか?？」

「あーちよつと貸せ!」

で銀時が見る

「あーあ・・・何あれ・・・お前マジでやばいわ・・・」

「ヅラ!ほかのメンバーはどうしたん?？」

「一応その屋敷にいさせるのはやばいからな・・・みんな今日は家に帰らせた。」

「っし！ナイスや！！ヅラ、エリザベス、なんか変装しとき！！」

「分かった。」

「っておい！！待て！！」

「どうしたんです？？銀さん。」

「今回の依頼は悪魔で屋敷に変な奴等に見られてる・・・ってことだ！！」

つまり、見ている本人を見つけたんだから依頼はおしまいだ！！」

「銀ちゃん・・・ケチくさいアルな・・・」

「そうですね・・・真選組だったら無視しようと思ってましたが・・・」

「いいんちゃうん？？依頼最後まで受けても・・・」

「んなこと言ってるどーせ真選組が関わってくるんだよ・・・」

ちなみにヅラとエリザベスが帰ってきた

ヅラはマリオ

エリザベスはルイージ

ひげまでつけている

「まあ・・・これで外へ出られるやん。」

「正直あんないかついおっさんに謝ってすむ問題じゃないですよね・・・」

「んじゃ、どーすんだよ・・・」

「殺って真選組に届けるか?？」

「夢叶さん・・・あんた今とんでもないこと言いましたよね?？」

「いいアルな!」

「ちょっと! 神楽ちゃん!」

「ってアレ??? 土方さん、近藤さん、山崎、誰かいますよ?？」

「え・・・まさかこの声は・・・」

新八はあせりながら言う

「ありや・・・マジで真選組来たよ・・・」

「ほら！俺言っただじゃん！！こついつの言っただらこつなるよつて！！」

「ますます話がややこしくなってきたアル。」

「つてよろず屋じゃないか・・・何してんだ？こんな所で・・・」

「銀時・・・あのさ、あのゴリラとタバコ吸ってる兄ちゃんとバズーガ持ってるヤツ」

誰？」

今まであんまりかわらなかつたんで初対面だ

「夢叶さんは初めてお会いするんですね・・・えっと」

「あのゴリラは近藤アル。真選組の隊長ネ　タバコの方は土方、副長アル。
でバズーガの方は沖田アル。」

「ふーん・・・」

「えっと、そこのお姉さんの名は？？」

ゴリラが話かけてきた!!

「えっと、竜堂 夢叶です。よろしく」

「そうですか。夢叶さんよろしくお願いします。」

「旦那の知り合いですかい??」

「いや、ずっと前からいるよろず屋のメンバーだ。簡単に言つと俺のおさなじみ

っー奴だよ。」

「でお前ら何してんだ、こんなところで」

「ここにおる、マリーオとルイジがよろず屋の依頼でなんか変な奴に目えつけられたからそれをどうかせえって・・・ほらおそこにおるいかついおっさん達。」

「なんだと!？」

「実は俺達もその目的だ。」

「やばい奴等なん?？」

「ああ。独断で武器を作りそれをやばそうな奴等に渡してるんだ。しかも高額で」

「なるほど・・・目的は同じってことか。」

「なんかアレの空気じゃないですか??？」

「うん。」

「よし!じゃあ手を組もう!」

「はい!来た!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

第四訓 偵察？日記（後書き）

山「って完ぺきに僕の存在忘れられてる！！」

新「どんまいです・・・」

第五訓 ゴリラはしょせんゴリラ（前書き）

サブタイ意味わかんないけど・・・

レッツゴーです!!

あ!!

みなさんにお知らせです。

あたすの学校・・・

期末テストがやってきたんです。 1週間前

なんで休みの日も更新はできないので、次の更新は12月

入ってからになると思います。

そこはご了承くださいたいと思います。

それでは長々と失礼しました。

第五訓　ゴリラはじょうせんゴリラ

「よし！じゃあ手を組もう！..!」

うわー！..!

ゴリラいらんと言いやがって... .

「出たよ・・・標的一緒やからって手を組む発言・・・
一時期の悟空とベジーターやん!!!!」

分からない人はドラゴンボール フリーザー編を見よう!

「夢叶さん・・・あんた伏字もしないで丸々打ち込んだよ。爆弾発言だよ!」

「大丈夫でさあ。アニメだったらピー音入ってまさあ。」

「そうそう。なんだったらここはモザイクかけてるって思ってた
さい!!!」

って読者の人に言えばええやん。」

「そいつ問題じゃねーよ!」

「で・・・銀時・・・手え組むん?」

「いいんじゃないの?やばそうな奴だったらまかせときゃ。」

「あっさり決まりましたよ!」

「あのー・・・僕が存在忘れられてません？」

「あージミーやん。」

「ジミーじゃねーよ！ー！ってかなんで僕の名だけ知ってんの！
？？」

「いかにもジミーです。って顔に書いてんやん。」

「嘘！？書いてんの！？僕そんな書いたことないけど！ー！ー！」

「ウルせー。山崎次騒いだら切腹だ。」

「副長！？あんたまでボケ！！？つーかなんで騒いだくらいで切腹！？つつこんじゃダメなの！！？」

「いえっさー！」

「つて総悟！！俺じゃねーよ！！何バズーガー構えてんだ！！」

ぢぢぢぢぢぢ

「おい・・・お前らそろそろ黙れ。俺あどうなっても知らねーぞ？」

「ちょっと・・・銀さん・・・真選組知らないんですよ。
夢叶さんの恐ろしさ・・・」

「そうネ。うるさすぎるのはイヤって・・・そろそろ切れるアルよ？」

「教えてやった方がいいんじゃないか？」

エリザベス「自分も思う」

ドガ！！！

「おいこら・・・黙れ。このアスファルトのようになってもしらね
ーぞ・・・」

屋上の柵を小指で触っただけで全部壊したうえ、
その下のアスファルトまでヒビが入っている

「
「
「
「
はい
・・・
「
「
「

第五訓 ゴリラはしょせんゴリラ（後書き）

短くてさーせん！！！！
それでは次回まで！！

シーユー！！

第六訓 ジミーと新八はキャラ似てる（前書き）

っよっしやああああああああああ！！！！

やっと期末終わったぞおお！！！！

第六訓 ジミーと新八はキャラ似てる

「というわけで作者がやつと期末終わったから次の話行くネ。
まあどーせ点数なんかクソだと思うアル。」

「ちょ・・・！！！！神楽ちゃん！！なんて失礼なことやってんの！
」？」

「さーいいかげん本題に入るで？」

「で・・・作戦だが・・・」

「作戦なんか関係なしで突っ込んでいった方がよくね？」

「銀時の案一理あるで！！んなめんどいこと言わんとバーって行った方が」

「あたしもネ」

「ダメですよ！！せっかく協力してるんです。
ここは真選組に任せましょう。」

「っち！ダメガネが！！」

「いらんこと言いやがって・・・ほんまいやわー」

「うざいアル」

「なんで注意しただけでそんなに文句言われる必要あんの！？？」

「で作戦はこうだ。まず奴等の後をつけアジトに行く。
そこで思いつき突っ込んで暴れて我々が逮捕だ。」

「でも近藤さん・・・やったけ??ついていくんやったら大人数は
よくないんちゃう?

うちら万事屋の銀時、うち、神楽、新八で4人

依頼人のマリーオとルイジで2人

真選組で近藤さんと副長さんと沖田君と山崎の4人

合計10人」

「ではこうしよう。実際あとをつけるのは2人
あとは観察。」

「いいんじゃない?それで。」

「じゃああとつける奴誰にするアル？？」

「俺とトシだ。」

「分かった。」

とか言ってタバコに火つけた

「観察組も班を作ってくれ。無線も渡す」

「ええと・・・残りは8人ですね・・・どうします銀さん？」

「割って4人ずつの班でよくね？」

「あとは班員やな・・・」

ボソ

「まず桂さんとエリザベスを真選組のメンバーと一緒にするのはまずいですよ。」

「そやな・・・じゃあマリーオとルイジー、新八と神楽の班、ほんで残りが銀時とうちとジミーと沖田君で」

「分かりました。」

「了解アル」

「了解だ。」

エリザベス「OK」

「りょーかい」

「OKでさあ」

「分かりました。」

うん。

やっぱりジミ〜と新八ってキャラかぶっておもんない

第六訓 ジミーと新八はキャラ似てる（後書き）

山&新「「つてちょっとまてえ!!」」

夢「なんで？」

新「何ですか!?!今の終わり方!!」

山「キャラ似てるって・・・」

神「だって2人ともツツ」ミ同じでおもんないネ」

山&新「「え・・・」」

第七訓 昔話（前書き）

いきなり銀時、夢叶、桂、高杉の昔話出てきます！！

第七訓 昔話

なんだかんだ言っ
て離れた

そして急激に

「なあー暇アル。」

「おい！無線で変な話してんじゃねー！！」

「うるさいアル。ニコチン野郎。」

「んだとコリアー!!」

「そうだ!! 銀ちゃんと夢叶とヅラと高杉って奴の昔話聞きたいネ」

「・・・えらい、いきなりやなあ・・・」

「めんどくせえーよ。」

「じゃあどうやってであつたかは教えてヨー!!」

「それについては、僕も気になります。」

「新八までかよ・・・」

「うちはいいけど・・・結構長いぞ?」

「全然いいアル!!」

「いやだから無線でムダなこと話すなよ!!」

「はは!! いいじゃないか!! トシ!! こちらも暇なことだし。」

「じゃあ……いくで……」

あの日

松陽先生が銀髪で刀を大事に持って死んだ魚みたいな目した男・・・

そう銀時を連れてきた

「今日からみなさんと一緒に勉強する坂田 銀時君です。仲良くしてくださいね。」

席が空いてるのはうちの隣の席やった

で席に着いたけど、10分くらいでそいつは寝た

松陽先生の授業は分かりやすくていいのに・・・

と思ったけどつまんない

授業が終わりみんなが帰ったけど銀時は起きへんかった

もしかして・・・授業終わったこと知らんのかなあ??

みんな知ってるはずなのに、ヅラと高杉、松陽先生とうち以外誰も
残らんと
帰った

へんなの

「えーと・・・銀時やったけ??授業終わったで!!」

爆睡

「コイツ・・・よだれたらしてる・・・」

「よっぽど疲れているのだろう。」

「いや、疲れてることしてないと思うけど・・・授業終わったでー
！！」

シーン

「どっただけ寝てんねん・・・」

「みなさん何してるんですか？授業は終わりましたよ？」

「コイツが起きねーから起こそうとしてんだ。」

「そうですか。みなさんやさしいですね。」

そっつい先生は笑った

「授業終わったでー！！」

声を大きくしてみたが、変化なし

「こんにゃろ・・・マジで殴るぞ・・・」

「夢叶落ち着け」

「黙れツラ!!」

「ツラじゃない桂だ。」

ぷっ
ちん

「えーい！！仏の顔も三度までや！！この野郎！！授業終わりましたよっつ
てんじゃよコラボケエ！！！」

胸倉つかんで大声で叫んだ

「んだよ・・・うるせえな・・・って誰？？ってか見知らぬ人に会
って

いきなり胸倉つかんで大声でさけぶ奴でそうそういないよね？」

「見知らぬ人ちゃうし！！うちは竜堂 夢叶！！銀時・・・やった
け？
よろしくな！！」

「俺は桂 小太郎だ。よろしくな。」

「高杉 晋助」

「真ん中の奴ヅラな。」

「ヅラじゃない！桂だ！！」

そして横で松陽先生が笑っていた

「
・・・とまあこんな感じやったかな??」
」

「そんな感じだろ。なんせ夢叶と初めて会話したのは大声で胸倉つかんで

怒られたつーのはよく覚えてるよ。」

「そりゃ、そうでしょうね・・・」

「おい！昔話はおしまいだ！奴等が動き出した！！よく見ておけ！」

「黙れ土方」

「総悟 テンメエ土方って呼び捨てしやがって！！」

「黙れニコチン」

「なんなの！？なんで初対面の女にニコチンって言われなきゃなんないの！？」

おしまい？

第七訓 昔話（後書き）

P
S

土「おしまいって作者お前！」

沖田「土方死ね。」

バズーガー

発射

第八訓 一日は24時間じゃなくてもいい気がする(前書き)

夢叶と銀ちゃんとかの昔話・・・

また書きたーい!!

第八訓

一日は24時間じゃなくてもいい気がする

敵の奴等はまず歩いて人目のつかない場所に行きアジトへ向かった

と土方から連絡があった

「いよいよ突撃ってか。」

「ついでに土方殺ろうっと！」

「えらい爆弾発言がましたで・・・」

「よし！！みんな俺達の所に一斉に来い！突撃を開始する！」

「ラジャー」

「了解アル」

敵がアジトに入った瞬間飛び出した

「そこまでだ!!」

「な！？アイツら真選組だ！！」

で仲間の増援多し・

「みんな一斉にかかれ！！」

近藤の合図でみんな行く

「この邪魔アル!!」

神楽は敵を蹴り倒したりしている

「ウオララララ!!!!!!!!!!」

銀時は木刀振り回してる

「土方しねえ！！！」

総悟君はバズーガー射ちまくってる

「どおりやああああー！！」

土方は剣振り回してる

「って呼び捨て！？？」

でうちは・・・

「あの女かわいいじゃねーかよ。」

「はー！とめてやる。」

みんなの笑い声が聞こえる

で1人の男が殴りかかってきた

「なめんなよー!!」

殴りかかってきた男をつかみそいつを振り回す

「人間ボウリングやボケエ!!!」

「「「「うわああああ!!」」」」

半分は消えた

みんな青ざめてむっちゃん引いてる

（銀時以外）

「毎回思っんですけど・・・銀さんよく驚きませんね。」

「まあ・・・ガキの頃から見てるし・・・梅ばあの約束もあるしな・・・」

「銀さん?？」

「なんでもねえよ」

「なあ、お前」

「なんだよ。ニコチン野郎」

「ニコチン言っな！！お前あの琥珀女のこと好きだろ？」

「俺も思いますぜエ」

「私もアル！！」

「僕も思ってたました。」

「おい！キリねえな！ねえ！！」

「まあ、理由はあとで聞き出すとして。」

「おい！…ニコチンお前キャラ変わってね？」

「そろそろ逮捕って・・・マリーオとルイジーがいらないな？」

「本当だ。」

銀時は気づいた

いつの間にか手のひらに手紙があった

第八訓 一日は24時間じゃなくてもいい気がする(後書き)

まあ過去の話次回かけたら書きます!!

第九訓 すきやきパーティー！？前半（前書き）

とりあえず、一章？終わったかな？？
では、どうぞー！！

第九訓 すきやきパーティー！？前半

あれから数日後

とりあえずあのやばいおっさん達は捕まった

ヅラからも手紙で報酬来たし、真選組からも協力料として金が結構もらえた。

「まあ、とりあえずこれで今月の家賃払えるわ！はい、玉」

「かしこまりました。これで今月の家賃は確かにいただきました。
では失礼します」

なんとかセーフやな・・・

「あら、夢叶ちゃん。」

「お妙さん!!」

「あらやだ、別に呼び捨てでもいいって言うてるのに……それよりみんないるかしら？」

「はい!二階にいますけど……どうしたんですか？」

「ふふ!時期に分かるわよ。」

いやな予感が……

「うおりゃあああああああー！」

ドスンー！

「ちょ・・・！！神楽ちゃん！！なんていう掃除の仕方してんの！？」

「何って・・・モップをかけているアル。」

「なんでモップかけてるだけで机とかひっくりかえるんだよ！！俺今ジャンプ読んでるんだよ！！」

「銀時イ！！テメエジャンプたまったの、ほかし（捨て）に行け！！
ついでにゴミ箱のたまった奴もよろしく。」

「なんで俺ゴミ捨て係！？？」

「神楽ちゃん、掃除の仕方はこうするのよ。」

「アネゴー！！」

「姉上ー！！」

「夢叶ちゃん、わたしも手伝っわ。」

「すみません！！ありがとう。」

「ええ。気にしないでー！！」

「姉上、今日はどうしたんです？」

「今日は知り合いから、お肉をもらったの！！だからみんなですき
やきでも
しようと思って！！もちろん私が作るわ！！」

「わたしが作る・・・！？？」

みんなの視線がうちに集まった（お妙以外）

「（夢叶！！頼むからお前も作れ！！絶対例の黒いのしかできねえよー！！）」

「（そうですよー！！せっかくのお肉がかわいそうですー！！）」

「（あたしもアル！！あの味・・・思い出ただけで・・・ウツ！！）」

「（んなことうちにもわかる！！あんな食べたら次の日みんなそろって

下痢ピーやー！！）」

「お妙さん！！うちも手伝います。」

「あら、ありがとう。」

「「ホー……」」

「お妙さん！！俺はいつでもお妙さんの料理を食べますよ！！」

「だからなんでテメエがいるんだ、このクソゴリラア！！！」

「ぶはあっああ！！」

「「「「」」」」」

「近藤さん、どこに行くんだ？って……万事屋！」

「……またですかイ……」

「……またはこっちのセリフや……もっこれ何回目やねん。」

「知るかよ、琥珀女」

琥珀女Ⅱ夢叶

「変なあだ名つけんなニコチンマヨネーズ」

「なんだよニコチンマヨネーズって!!お前こそ変なあだ名つけんな!!」

「んだとコラア!!やんのかニコチンマヨネーズがああ!!」

「そっちこそやんのか琥珀女がああ!!」

「土方さん・・・あんた女にケンカ売るんですかい??」

「うるせえ！お前もチャイナ娘としてんじゃねーか！」

「死ね土方」

「なんで呼び捨て！？」

次回・・・どうなる？すきやきパーティー？

第九訓 すきやきパーティー！？前半（後書き）

土「ってなんで勝手に終わらせてんだよ！？作者！！」

神「この世界でも作者が一番権力持てるネ」

新「いやな話しないでくださいよ・・・」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2955y/>

よろず屋に変人！?(・o・)

2011年12月17日12時52分発行